

歴史自然の里

冠岳

かんむり

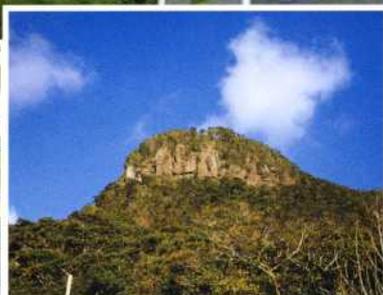
だけ



徐福像より冠岳を望む



かんむり嶽参り



冠岳（西岳）



望嶽亭と水鏡



鎮国寺

鹿児島県
いちき串木野市

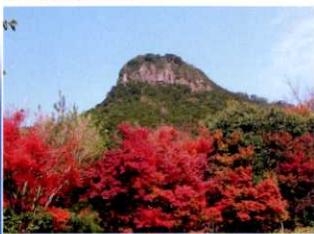
いちき串木野市 冠岳歴史自然の里

周辺全景図



1 冠岳(西岳)

冠岳は八重山山塊に連なる山で、西岳・中岳・東岳からなっており、主峰である西岳は、標高516mに達します。山頂には西岳神社があり、行楽の季節には登山客で賑わいます。



7 砂防堰堤(さぼうえんてい)

景観に配慮してコンクリートの上に擬岩(ぎがん)で造られています。



8 冠嶽園(かんがくえん)

冠嶽園は、頂峰院跡地に方丈「徐福」を顕彰するとともに、徐福の故郷中国との友好交流の願いを込めて作庭されました。



中国では「江南の庭園は天下一、蘇州の庭園は江南一」といわれ、明代、清代に多く造られた中国庭園のメッカである蘇州近傍の庭園の形をモデルとしています。庭園の様式は「自然式山水庭園」で池泉回遊式の形態をとっています。(平成4年4月開園)



9 望嶽亭(ぼうがくてい)と水鏡

中国交流の象徴、また冠岳花川砂防公園のシンボル。中国で設計・施工し、中国の技術者の指導を受けて建築されました。



10 多目的広場

多目的広場は「かんむりだけ山市物産展」の会場となるほか、広く交流活動に利用できます。広場内には、身体が不自由な方などにも利用できるような多目的トイレが設置してあります。



11 せせらぎ水路

水棲動植物を身近に触れて観察できる水路など、子供たちに体験学習の場を提供します。



12 連苑(れんえん)

湧水を利用した池や「亭」「洞門」を配し、中国文化との交流の架け橋となることの願いが込められています。



2 冠岳展望公園(徐福公園)
串木野市政施行50周年を記念して、2000年に石像としては日本一の徐福像(高さ6m)を建立しました。



3 小水林間広場



4 串木野ダム(ふれあい橋)



5 湖畔道路



6 児石公園



14 ウォーキングトレイル

歩きながら冠岳の歴史と自然を楽しむことのできる全長約8kmの散策道路。



13 健康広場

健康をテーマにして、ツボ踏み通路や健康器具などを整備しています。





年代橋

年代橋は、花川溪流再生砂防事業等により冠岳花川砂防公園内に新たに建設された橋で、全部で10橋あります。

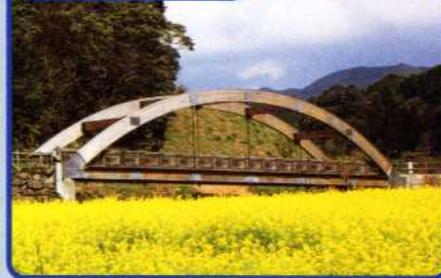
この花川にかかる10本の橋は「年代橋」として、花川の下流側から「10代橋」「20代橋」・・・と、ひとつの橋を渡ることによって徐福が不老不死の仙薬を求めて訪れたとされる霊峰冠岳に近づき、健康に年代を重ね、すべての橋を渡ることによって仙人のような長寿を得るといふ物語を表しています。

徐福橋(10代橋)



方士徐福が、ここ冠岳を訪れ、不老長寿の薬草を求め、霊峰冠岳に向かう五反田川に架かる最初の橋。この世に生を受け、人生の旅立ちを意味しています。

仙人橋(20代橋)



10代橋と並んで、花川に架かる木橋。仙人のような不老長寿になることを夢見て、花川の上流、100代橋の向こうにある桃花源をめざし渡っていきます。

昇龍橋(30代橋)



モチーフの形が2匹の龍の形をしており、若者達の成長を祈願しています。

蓮心橋(40代橋)



「蓮」は仏の土台である「蓮花台」を連想させ、蓮は修業者が修行を行い、仏心のような「心」をもつことを表しています。人と人の交流を意味し、また、「蓮」は仏教の起源を象徴しています。この橋の欄干には、徐福伝説の物語が石彫りされています。

蓬萊橋(50代橋)



徐福が不老不死の仙薬を求めて蓬萊の国へ渡来した伝説から名付けられています。50歳代は、100歳の半分＝人生の中間を表すことから、花川の間地点に架けられています。

花川橋(60代橋)



冠嶽神社への参拝の入口となり、地元の人々の心にある神社の存在を尊重しています。

神師橋(70代橋)



冠嶽神社の「神」と大師堂の「仏」を結ぶ橋。人間－神－仏。密教－印度－中国－日本の異文化混合の空間。日本人の神仏習合の思想から名付けられています。

天寿橋(80代橋)



中国では80歳は「天寿」を表しています。80歳を越えることは人生の関門であり、これを越えれば90歳、100歳となる。この上は仙人世界の入口であり、80歳は「天寿」、90歳は長寿と呼ばれています。

神仙橋(90代橋)



神仙とは不老不死の世界に住む人(仙人)のことであり、90歳代にして仙人の域に達することを願って名付けられています。

雲天橋(100代橋)



聖域に近づくサイトに渡る橋として、彼岸へ辿り着く通路をイメージしています。中国には「雲の上には天があり、天の外にはさらに天がある。」という無限思想があり、これを表しています。

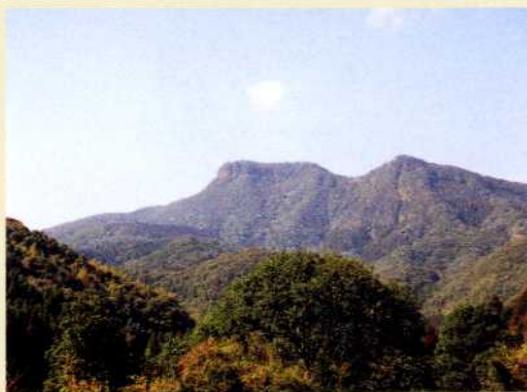
冠岳の由来

「東海に蓬萊(ほうらい)の島あり、その神仙から不老不死の靈薬を求めよ」

今から約2,200年前、中国の秦の始皇帝から命を受けた方士の徐福は、串木野の冠岳を訪れ、その景色のあまりの素晴らしさに、自らの冠を解いて頂上に捧げました。そのことから、この地を冠岳と呼ぶようになったとの説があります。

また、霊峰冠岳は、古代山岳仏教発祥の地であり、真言密教開祖の地でもあります。

東岳、中岳、西岳の三つの峰からなる冠岳の姿は、遠くから眺めると風折烏帽子(貴人の冠)のように見えるといわれ、その美しさは「三国名勝図会」に記されているほどです。



「冠岳歴史自然の里づくり」の事業

「冠岳歴史自然の里づくり」事業は、「花川(冠嶽園)周辺」・「冠岳西岳周辺」・「串木野ゲム周辺」の3つのゾーンに分け、それぞれのゾーンで、それぞれの特色を生かした整備を行い、これらのゾーンを有機的に結びつけ統括するものです。

冠岳は歴史と自然に恵まれており、これらを生かした地域づくりとして「歴史を辿る道」を基本コンセプトとして、そこから導き出される「健康」「長寿」をキーワードにハード整備やソフト事業など個別事業を実施していくものです。

冠岳地域一帯を「冠岳歴史自然の里」として整備することで、地域の歴史を再認識するとともに市民の憩いの場として、市民に親しまれる地域開発を目的としています。



徐福伝説

今から2,200年前(弥生時代の初期のころ)、中国では秦の始皇帝が春秋戦国の六ヶ国を統一していました。その始皇帝に齊の国の人徐福(=徐市)は、「はるか東の海に蓬萊(ほうらい)・方丈(ほうじょう)・瀛洲(えいしゅう)という三神山があり、そこに仙人がおります。私は齋戒して汚れなき童男童女を連れ、不老不死の仙薬を得たいと思います。」と願いました。そこで始皇帝は徐福に、童男童女数千人をつけ、海上に送りだして仙人を求めさせました。(秦始皇本紀の始皇二十八年(B.C219)の条『史記』司馬遷)

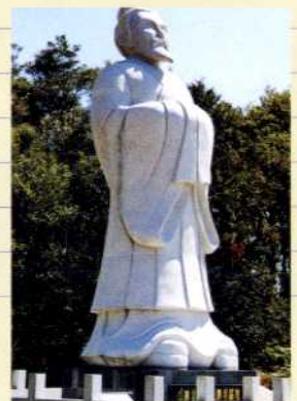
徐福は海に出て仙薬を求めましたが、数年経っても莫大な資金を費やただけで、ついに仙薬を得ることはできませんでした。そのため、徐福は始皇帝の怒りに触れるのを恐れ、「蓬萊に行きさえすれば仙薬を得ることができます。しかし、いつも大鯨に苦しめられて島にたどりつくことができません。どうか大鯨を射止めるために弓の同道をお許しください。」

と偽りの奏上をした。(秦始皇本紀の始皇三十七年(B.C.210)の条『史記』司馬遷)

そこで、秦の始皇帝は、さらに良家の童男童女三千人と五穀(米・麦・粟・豆・黍(または稗))の種子とさまざまな分野の技術者を徐福に託して旅立たせました。

しかしその後、何日もの航海の末に徐福がどこに到達したかは不明ですが、「平原広沢」の王となって中国には戻らなかったと書かれている中国の歴史書があります。

この「平原広沢」は日本であるともいわれ、徐福が上陸したとする「徐福伝説」は、ここ冠岳をはじめ、佐賀県佐賀市、三重県熊野市、和歌山県新宮市、山梨県富士吉田市など日本各地に存在します。



主 な イ ベ ン ト

徐福ロマンロードウォーキング大会

3月頃



徐福花冠祭

4月頃

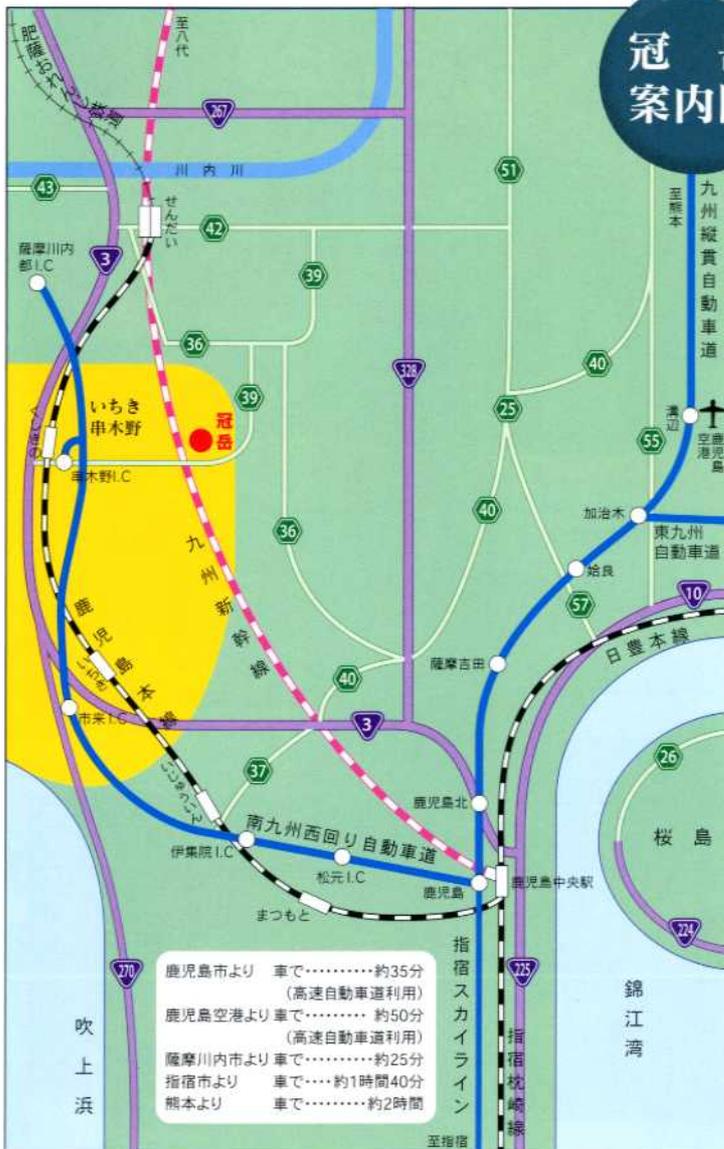


【かんむり嶽参り】 かんむりだけ山市物産展

11月23日



冠岳案内図



いちき串木野位置図



いちき串木野市役所 企画課

〒896-8601 いちき串木野市昭和通133-1
TEL.0996-32-3111

冠岳コミュニティセンター

〒896-0051 いちき串木野市冠嶽13511-7
TEL.0996-32-0760

お問い合わせ先